

# 令和8年度 東京都立片倉高等学校 学校経営計画

## 1 目指す学校

本校は、校訓「開拓・創造・協力」を掲げ、「未来を開拓する人間を育てる」「文化を創造する人間を育てる」「協力して社会の発展に貢献する人間を育てる」を三本の柱として、健全な教育活動を推進する。

都内唯一の美術系コースをもつ普通科高校として、日常的に芸術作品に触れる教育環境を生かし、生徒の感受性を磨くとともに、全教職員が一致団結し、生徒一人ひとりの心身の成長に寄与するきめ細かな教育活動を通して、これからの社会を主体的に生きるために必要な学力と人間性を育成し、生徒の進路希望の実現を図る。

普通科においては、学習と部活動、学校行事等を切り離すことなく一体として捉える「文武不岐」の姿勢を重視し、部活動を目的として入学した生徒であっても、学習をおろそかにすることなく、学習と部活動を両立させながら、それぞれの第一希望進路の実現を目指す教育を行う。あわせて、都立学校における部活動の特別強化プロジェクト Premiere Club の指定を受けた部活動の取組を生かし、生徒の主体性と協働性を育む。

造形美術コースにおいては、生徒一人ひとりの発想や関心を尊重し、創作活動を通して自ら考え、表現し、学びを深める力を育成する。『ひらけ 個性の芽』——そのスローガンが示すように、美術教育を通して生徒の個性を大きく開花させるとともに、美術系大学・専門学校等への進学ニーズに応える専門的な指導を充実させる。本コースは本校の特色を形成する教育のエンジンとして、学校全体の発展を牽引する役割を担う。

日常の教育活動においては、「挨拶・勉学・挑戦・夢」を大切にするとともに、規範意識を重視し、丁寧な清掃、整理整頓、美しい言葉遣いなど基本的な生活行動を通して、落ち着いた学習環境と温かな学校風土の形成に努める。

## 2 スクール・ミッション及びスクール・ポリシー

### (1) スクール・ミッション

本校は、校訓「開拓・創造・協力」を基盤に、生徒一人ひとりが自らの将来像を描き、基礎的・基本的な学力を確実に身に付けた上で、知識を活用して課題に対応し、他者や社会と連携・協働しながら、未来を切り拓き、文化を創造し、社会の発展に貢献する人材を育成する。

### (2) スクール・ポリシー

#### ア グラデュエーション・ポリシー

本校は、学習や部活動等に主体的に取り組み、困難な課題から逃げることなく、他者と協働し、必要な支援を受けながら課題を克服できる生徒を育成する。基礎学力を土台として、自らの進路を主体的に選択し、第一希望の進路実現に向けて努力し続ける力を身に付けさせる。

#### イ カリキュラム・ポリシー

本校は、人権尊重の理念を基盤に、生徒一人ひとりの個性や創造性を大切にした教育活動を展開する。ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりを推進し、すべての生徒が学びに参加しやすい教育課程を編成する。

普通科では学習と部活動の両立を支え、東京都教育委員会 Premiere Club の指定を受けた部活動の取組等を生かしながら、主体性と協働性を育む教育活動を推進する。あわせて、1・2学年では普通科・造形美術コースの両方で、Inspire High を活用した探究的な学びと、スタディサプリを活用した学習支援を行い、課題設定・情報活用・発信の力を育成するとともに、基礎学力の定着と学習習慣の形成を図る。さらに、都立高校における進学指導の業務支援を活用し、外部の講座等も取り入れながら、進路実現に向けた支援を充実させる。

造形美術コースでは、観察・構想・表現の過程を重視し、素材や技法の理解、対話的な鑑賞と批評、振り返りと言語化等を通して、表現を深める基礎的な力を育成する。その学びを通して、制作と展示を一体とした学び（学校の美術館化）を展開し、新たな価値を生み出す力と豊かな感性を育成する。

また、国際理解教育を推進し、地域性を踏まえつつ地球規模の視点で物事を考え、行動できる態度を育成する。あわせて、英語4技能を測定する外部検定試験を指定学年で年1回実施し、結果分析を指導改善と目標設定に生かすことで、総合的な英語力の向上を図る。

#### ウ アドミッション・ポリシー

本校は、学習、部活動、生徒会活動、地域・社会活動等に意欲的に取り組み、自らの可能性を伸ばそうとする生徒を求める。これまでの成果のみならず、努力を継続する姿勢や、仲間と協力して活動に取り組んだ経験を重視する。

造形美術コースでは、文化・芸術への関心と表現への意欲を持ち、制作に粘り強く取り組もうとする生徒を求める。

### 3 中期的目標と達成に向けた方策

#### (1) 主体的な学びを通じた学力の定着と向上

主体的・対話的な学びを重視した授業改善を進め、ICT や校内図書館の資料を活用した読書活動・調べ学習・探究的な学びを通して基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るとともに、知識を活用して課題に対応する力、思考力・判断力・表現力の向上を図り、多様な進路実現につなげる。

#### (2) 道徳教育及びキャリア教育の充実による人間力の育成

道徳教育及びキャリア教育を充実させ、人間としての在り方生き方について考えさせるとともに、志をもって人生を主体的に切り拓こうとする意志を育成する。

#### (3) 人権尊重と安全・安心を基盤とした学校づくり

人権尊重の精神を重視した教育を実践し、自他の生命を尊重する心を育むとともに、しなやかで折れない心を育成する。安全・安心な学校づくりを進め、部活動については、部活動ガイドラインを遵守した適切な運営の下で、生徒の積極的な参加を奨励する。あわせて、いじめ・暴力行為・体罰については、万が一事案が発生してからへの対応にとどまらず、日常の観察や指導を通じた予防的取組を重視し、その根絶を図る。さらに、教育活動全般における事故や怪我の未然防止に努めるとともに、不登校や中途退学の未然防止を図るため、生徒一人ひとりの状況を丁寧に把握し、学年・分掌・関係機関が連携した組織的な支援を行う。

#### (4) 特別支援教育と健康・体力づくりの推進

特別な支援を必要とする生徒に対して、個々の状況に応じた対応が行える組織的な支援体制の充実を図る。

あわせて、一人ひとりの生徒の実態に応じた体力の向上を図る教育活動を計画的・組織的に推進する。

#### (5) 地域と社会に参画する態度及び国際理解の育成

地域との連携や社会貢献・奉仕活動を通して、生徒の主体的な判断と行動を育成し、社会に参画する態度を養う。あわせて、海外学校間交流推進校としてシンガポール国立芸術中等学校(School of the Arts, Singapore, SOTA)との交流を含め、国際理解教育を推進し、地域性を踏まえつつ地球規模の視点で物事を考え、社会の発展に貢献しようとする態度を育成する。

#### (6) 効率的な学校運営と働き方改革の推進

業務の精選と公務の効率化を進めるとともに、校内の安全管理体制の適正な運用を図り、勤務時間管理の徹底や勤務間インターバル(原則 11 時間)の確保に努めることで、全教職員の計画的な年次有給休暇取得と夏季休暇の完全取得を促進し、教職員のライフ・ワーク・バランスの改善を図り、教育の質の向上につなげる。

#### (7) 服務事故防止とコンプライアンスの徹底

教職員一人ひとりが高い倫理意識を持ち、法令及び服務規程を遵守する。体罰、個人情報紛失、交通費の不正受給等を含め、すべての服務事故を起こさない学校体制の確立を図る。

あわせて、服務事故防止に向けた校内研修等を計画的・継続的に実施し、事故防止に対する共通理解を深め、未然防止を徹底する。

### 4 造形美術コースに関する取組(学校の美術館化の取組の推進)

造形美術コースでは、生徒一人ひとりの創造性や表現意欲を尊重し、制作と試行錯誤を重ねる学びを重視した指導を行う。校内展示等を通して、教育活動の理解促進と自己肯定感の向上を図る。

あわせて、制作と展示を一体とした学び(学校の美術館化)を核とし、創作活動を起点として学習への意欲や理解を広げる教育を行う。制作過程における省察(振り返りと言語化)や、対話的な鑑賞・批評の学びを取り入れ、学習と創作を相互に関連付けた指導を充実させるとともに、学習が苦手な生徒に対しても、段階的な支援により学びへの参加を支える。

また、美術系大学等との高大連携を推進し、専門的な学びに触れる機会を充実させる。第2学年では、絵画・版画・工芸・デザイン等の講座から生徒が選択して受講し、大学教授等から直接、専門的な制作指導を受けることで、制作の視野を広げるとともに、進路意識の醸成を図る。

学校外会場での展示会については、年2回を計画的に実施し、次年度以降の志願者層となる中学2年生以下を主なターゲットとして位置付ける。展示の見せ方や案内方法を工夫するとともに、次回の体験機会(デッサン教室・学校説明会等)への導線を整備し、翌年度以降の志願者確保につなげる。

5 教育活動の目標と方策	重点目標と方策(数値目標)
<b>(1)学校経営について</b>	
① 生徒の進路実現に資する教育の質を高めるため、教職員の協働による授業改善を計画的・継続的に推進する。	・相互授業観察、他校参観、授業動画の活用等を通じ、年3回以上実施
② 安全・安心な教育環境の整備と、落ち着いた学習環境づくりを進める。	・学校設備不備による生徒事故 0件 ・校内美化に係る活動 年2回以上
③ 防災・減災意識を高め、非常時に対応できる学校体制を整える。	・防災・減災に係る取組年3回以上
④ 教職員の資質向上と服務規律の保持を図り、信頼される学校づくりを推進する。	・校内研修 年3回以上 ・体罰・個人情報紛失等服務事故 0件 ・服務事故防止研修 年3回以上 ・シュレッターの適性管理運用の徹底（テスト返却まで使用しない）
<b>(2)学習指導・進路指導について</b>	
① 学校行事や集会・HR等の機会を通して「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を徹底し、規則正しい生活習慣と規範意識を育成する。	・年間総遅刻回数 6000回以下 ・チャイム着席の徹底 100%
② 主体的・対話的で深い学びを重視した授業改善に加え、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、とりわけ英語・数学・理科においては、生徒の苦手意識を軽減し、学習への参加意欲を高める工夫を通して、基礎的・基本的学力の定着と向上を図る。	・生徒の授業満足度 80%以上 ・生徒の主体的な対話的な学習を取り入れた授業に取り組む教員 100%
③ 1人1台端末やTeamsを活用した授業をはじめ、ICTやデジタル教材、校内図書館の資料を効果的に活用し、学習の質と効率を高める。	・1人1台端末及びTeamsを用いたICT活用授業に取り組む教員 100%
④ 教科内・学年間の連携を強化し、教育活動の質を高める。	・同一学年・同一教科での定期考査の共通化の実施
⑤ 外部検定等と海外学校間交流(シンガポール国立芸術中等学校[SOTA])を通して、英語力及び実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。	・英語検定等を活用した取組の実施 ・海外学校間交流の実施(シンガポール国立芸術中等学校[SOTA]) 他
⑥ 進路実現を着実に支援するため、三年間を通じて計画的な進路指導を行い、生徒・保護者向けの進路説明会を定期的実施する。	・生徒対象年2回以上 ・保護者対象年1回以上 ・進路決定率(進学準備除く)95%以上
<b>(3)生活指導について</b>	
① 個別指導を通じた生活習慣の確立と、SC・SSW等との連携による不登校傾向生徒への早期支援・居場所作りを推進する。	・生徒の相談に応じていると評価する生徒の割合 80%以上
② 指導の意図が生徒に理解される生活指導を推進する。	・指導を肯定的に受け止める生徒の割合 80%以上
③ いじめ・問題行動等について、事案が顕在化する前からの予防的取組を重視するとともに、認知後は速やかな初動を含めた組織的対応を徹底する。	・生徒対象いじめ調査 年3回以上 ・いじめ認知後、速やかな組織的対応
<b>(4)心身の健康について</b>	
① 生徒の心身の健康保持と、安心して相談できる体制を整える。	・保健だより 年2回以上 ・保健・教育相談等の会議年3回以上

5 教育活動の目標と方策	重点目標と方策(数値目標)
② 教育相談体制を組織的に整備し、いじめの未然防止や体罰等の根絶を図るとともに、若者の自殺防止に向けた早期発見・早期対応を図る。	・SCによる新入生面接の実施 ・いじめ・自殺防止の取組に対する生徒肯定評価 80%以上
<b>(5)特別活動・部活動について</b>	
① 生徒が主体的に参画する学校行事を通して、協働性と達成感を育む。	・体育祭・文化祭への評価 85%以上
② 生徒会活動を通して自治的態度を育成する。	・生徒会主体の行事 年1回以上
③ 部活動への積極的参加を奨励するとともに、部活動ガイドラインを遵守した適切な運営を通して、学校生活の充実を図る。	・第1学年の部活動加入率 70%以上 ・部活動運営自己点検の年1回実施
④ 特別強化指定部(Premiere Club)を学校の魅力向上を牽引する“エンジン”として位置づけ、教育活動と広報活動の両面で活用することで、生徒の文武両立と品位ある行動を促し、本校全体の活性化につなげる。	・Premiere Club 指定部活動の年間指導計画作成、Tier1 としてのモデルケースを構築する。 ・振り返り 年2回以上
⑤ 校外の大会・発表会へ計画的に参加し、他校や地域との交流・競争を通じて生徒の視野を広げ、自己成長につなげる。	・全クラブが年間1回以上校外の大会・発表会に参加
<b>(6)造形美術コースについて</b>	
① 造形美術コース運営委員会等を定期的実施し、運営体制の充実を図る。	・造形美術コース運営委員会の定期的実施
② 専門性の高い指導と制作活動を通して、創造力と表現力を育成する。	・校外展示等の教育活動 年2回以上
③ 生徒の個性を伸ばす専門指導を基盤に、美大模試やポートフォリオ作成指導等を通して進路意識を高め、大学との高大連携を活用しながら美術系進学を支援し、進路実績の向上を図る。	・高大連携(美術系)2校以上の実施 ・美術系大学への進路決定 80%以上
④ 造形美術コースの教育活動の成果を発信するとともに、画塾訪問や都内中学校美術部訪問、中学生デッサン教室の実施等を通じて志願者確保につなげる。	・画塾訪問の実施 ・中学生デッサン教室参加者 100名以上 ・都内中学校美術部等訪問
<b>(7)広報活動・募集対策について</b>	
① 中学校への訪問を計画的に実施	・八王子市内を中心に中学校訪問実施 ・中学校美術部等訪問も併せて実施
② 学校の教育活動を積極的に発信し、本校への理解を促進するとともに、広報・募集活動については総務部を中心に、全教職員が組織的に取り組む。	・学校説明会・見学会 年10回以上 ・デジタル媒体(HP・SNS)年間 700回以上更新
<b>(8)組織体制の充実について</b>	
教職員が学校経営に参画し、業務の効率化と働きやすい職場環境の整備を通して、組織的・効率的な運営を行う。	・企画調整会議・職員会議等を60分未満で実施、職員会議のペーパーレス化により業務効率化を図る。 ・情報共有のため、朝の打ち合わせを実施 ・全教職員の年次有給休暇の15日以上の取得を推奨する。 ・夏季休暇は付与日数を全員が取得